

巻 頭 言

日本数学会広報委員会より

日本数学会前広報委員長 前田 吉昭

広報委員会を受け持ち3年間の任期がたち、その区切りを迎えています。数学通信に広報委員会がどのような仕事をしてきたかをこの場を借りてご説明する機会をいただきました。

広報委員会が受け持つ一つの仕事として、日本数学会の記者会見を設定する仕事があります。記者会見に報道関係の方が来ていただけるかどうかいつも不安がありました。数学に世間が興味を示すような高い話題性がいつもあるとは思えないのも確かです。記者会見の主な話題は、日本数学会賞をはじめとする様々な賞の発表ですが、この受賞理由というのを説明するのが理事長はじめ関係各賞の担当の方々ですが、説明のあとに、決まったように記者の方々から「そのところもうすこし分かりやすい説明をしてもらえませんか」というのがいつもいただく質問でした。仲介をして聞いているほうとしては、ずいぶん丁寧に説明されていると思っていましたが、どうも世界の隔絶は大きいと考えざるを得ませんでした。数学の価値を説明することは難しいものだ実感したものです。これらの賞をアメリカ数学会の Notices やオーストラリア数学会の Gazette に記事を投稿するのも私たちの役割です。

数学会が新事務所を持ち、数学会の賞も増え、数学研究の評価や雑誌の維持の問題等についての声明や教育問題等に関する数学会主催の企画を発表することで記者会見にも常連の記者さんがおいでいただけるようになりました。この方々とお付き合いができるようになって、私にとっても大変よい経験になったと感謝している次第です。特に、共同通信、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、東京中日新聞や科学新聞の記者の方々、数学セミナー、数理科学、日経サイエンスの編集の方々には記者会見の常連としてご参加いただいたばかりではなく、様々な数学会の企画についての案内や記事を書いていただきました。数学の価値を一般社会から認めてもらうことのむずかしさがある一方、媚びることなく、その意義を示していく必要があるだろうと考えています。「数学の孤高」な部分と「数学の社会性」の二極点をどのようにコントロールできるかはそうやさしいことではないでしょうが、私たちに求められる問題であるといえます。数学会が考えていることをできる限り、世の中に分かる形で広報ができればと思っておりました。現在、埼玉大学の岡部先生が委員長を務めている教育委員会が提案して、数学会が始めた「出前数学授業」には様々なところか反響を得ていると聞いています。これなどは、

報道関係の方々から興味を持って記事にさせていただいた例だと思っています。

ある新聞社の方から、一般向けに書かれた数学の本が、よく売れているよさうだということをお聞きしました。書店にしてみると平積みされた数学関連書物が置いてあるのも確かです。学生が勉強しているのをみると、数学専門書を買わなくなり、数学の専門書コーナーというのがどんどん狭められてきているのが現状のように思っておりました。数学専門書という希少価値の存続が難しくなってきたのではないかなとも思っていたからです。一般書店で数学関連の書物が平積みの形で並べられているのを見ると、数学に対する人々の関心は潜在的にあるものだと思います。

広報委員会では、数学会が開催されるたびに、開催校と協力して、市民講演会を開催しています。これにも、数学会会員以外の方々が多く参加してくださっております。また、講演をお願いした講師の方々も一般参加者の方々への配慮をしていただき、皆さんが満足してお帰りいただいているのをみると、数学の関心もまんざらではないと考える次第です。そのほか、湘南国際村での高校生を集めた数学セミナーや一般の方々向けの市民講演会等も担当することも昨年度から始めています。

数学会事務局では、パンフレット作成や私の至らない事務のサポートを含めいろいろと助けていただきました。私の前の広報委員を勤められた青山学院大学矢野公一先生やともに広報委員として働いていただいた東京女子大阿久俊則先生、今年度から実質的に広報を務められる学習院大学川崎徹朗先生、東京工業大学石井志保子先生には、多くのご協力をいただき感謝する次第です。ご無理を申し上げながらも、市民講演会の講師をお引き受けいただいた多くの数学会会員の方々にもお礼を申し上げます。よい方々にめぐまれ、楽しく広報委員会が運営できたことを喜んでおります。